

## 日向夏新ウイルス病

南予地域の一部の日向夏園で、新ウイルス病と考えられる病気が発生した。その症状は枝の切断面の年輪部が茶褐色（バームクーヘン状）となり、激しい場合は樹皮に亀裂が生じてヤニを吐出し、樹勢が衰弱して、ついには枯死するものである。本症状は、発病樹から健全樹へ接木によって伝染することが明らかとなっている。

平成7年2月に発病樹および健全樹各5樹（17年生）について、幹周、樹容積、着果数、果実の大きさおよび葉面積について調査した結果、発病樹は健全樹に比べて着果数で約半分に、平均果重で3分の2程度に止まり、すべての調査項目で劣った（表）。また、発病樹および健全樹のウイルスの保毒状況を調査した結果、すべての樹で保毒が認められたの

はカンキツトリステザウイルス（CTV）のみで、他のウイルス（温州萎縮ウイルス、カンキツタターリーフウイルスおよびエクソコーティスウイロイド）は認められなかった。

本病はCTVの症状とは明らかに異なり、病原はCTVを含む既知のウイルスとは考えられない。本症状によく似た病気（コンケープガム）が外国で発生しているが、病原体は明らかにされていない。

このため、平成7年度より、伝染方法（種子、器具、虫媒および土壌伝染）や品種抵抗性に関する試験を行うとともに、無毒化を中心とした防除対策の確立に努めている。

なお、類似症状が発生している場合は、試験場に御一報していただきたい。

（病害班 主任研究員 三好孝典）

表 発病樹の被害状況

	幹周 (cm)	樹容積 (m <sup>3</sup> )	果数 (個)	平均果重 (g)	横径 (cm)	縦径 (cm)	葉面積 (cm <sup>2</sup> )
発病樹	26.3	3.96	125	93.1	60.1	54.8	16.1
健全樹	30.6	7.82	238.8	129.0	68.2	61.9	21.2
t検定 <sup>1)</sup>	NS	NS	*	**	**	**	**

1) \*；5%、\*\*；1%で有意、NS；有意差なしを示す。



①健全樹と発病樹 左：健全樹 右：発病樹



③切断面の年輪部の茶褐色状況とヤニの吐出



②ヤニの吐出状況

編集発行 愛媛県立果樹試験場  
〒791-01  
松山市下伊台町1618  
TEL 089-977-2100  
FAX 089-977-2100